

2021. 8. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行  
TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

## ★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

## 【山口県子ども読書支援センター行事】

## ★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

※9月は開催中止（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため）

《8月のおはなし会で使った本》

『なつのいちにち』（大型絵本）はたこうしろう/作 偕成社 2013

『ぼくはクワガタ。』（紙芝居）栗林慧/作・写真 教育画劇 2013

『ポンコちゃんといいかわり』（紙芝居）ひろかわさえこ/脚本・絵 童心社 2017

『ありとすいか』（大型絵本）たむらしげる/作・絵 ポプラ社 2004

## ★第2回子どもと本をつなぐスキルアップ講座

○日時：令和3年9月4日（土）14：00～15：45

○会場：Microsoft TeamsによるLive配信

○講師：湯澤 美紀氏（ノートルダム清心女子大学教授）

○内容：【講義】「子どもの育ちを支える絵本の選び方」～おはなし会などでとりあげる絵本の選書～

○対象：県内の子ども読書ボランティア、公共図書館職員、司書教諭、学校司書、保育士、幼稚園教諭、保育教諭等

※申し込みを締め切りました。なお、来館参加は中止になりました。

◎連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

## 【お知らせ】

山口県立山口図書館（山口県子ども読書支援センター）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、次のとおり臨時閉館します。

令和3年8月26日（木）から9月12日（日）まで

※ 9月13日（月）は通常の閉館日

臨時閉館期間中のサービス（返却方法、返却期限の延長、問い合わせ先等）については、ホームページをご参照ください。

(<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/node/2294>)

## 【新刊紹介】 価格は消費税抜き

## &lt;絵本-3, 4歳から&gt;

『わたしのかみがた』 榎朋朋巳/作 フロンズ新社 2021.6 ¥1300

「わたしのかみがたについておはなしします。」帽子をとると、三つ編みを編んでぐるぐる巻いて頭にのせた髪型で、ほどくとても長くてパーマみたいにふわふわになる。昔は短かったり、黄色や赤や緑にしたことも。新しい自分になりたくてイメージチェンジでパーマをかけたなら、鳥さんたちが遊びこきて…。優しいタッチの銅版画と淡い色合いの水彩で描かれた楽しい絵本。

『ぱったんして』 松田奈那子/作 KADOKAWA 2021.7 ¥1200

ピンクと黄色のまる。ぱったんすると、きれいなお花がさいたよ！紙をまんなかで半分に折って、折った紙をひらいて、絵の具で色をのせよう。まるや線や点など好きなかたち、好きな色を好きなようにのせてみて。色をのせた紙を、半分に折る。ぎゅっとおさえてやさしくなでて、紙を開いたら…。どんなかたちができただろう？みると絶対やってみたくなる楽しいアートの絵本。

## &lt;絵本-小学校低学年から&gt;

『真夜中のちいさなようせい』 シン・ソンミ/絵と文 清水知佐子/訳 ポプラ社 2021.6 ¥1500

ある真夏の夜、男の子が熱いなされていた。看病でそばについていたママは、疲れてうとうと…。男の子は枕もとから聞こえる小さな声に目を覚ます。そこには、昔のママを知っていて、仲良く遊んでいたという小さな妖精たちがいて、「あたしたちがママの代わりに看病してあげる」という。小さかった頃のママと男の子、妖精たちとの大切な時間を、美しく繊細に描いた韓国の絵本。

『ぼくは川のように話す』 ジョーダン・スコット/文 シドニー・スミス/絵 原田勝/訳 偕成社 2021.7 ¥1600

僕にはうまくいえない音がある。部屋の窓から見える松の木「ま」。枝にとまっているカラスの「カ」。朝の空にぼんやり白い月の「つ」。うまく話せず落ち込むぼくを川へ連れて行き、「おまえは川のように話しているんだ」といった父。吃音のある少年の幼い日の思い出が、美しい川の光景と共に胸に迫る。シュナイダー・ファミリーブック賞、ニューヨーク・タイムズ最優秀絵本賞受賞。

## &lt;絵本-小学校中学年から&gt;

『絵本 筑豊一代』 山本作兵衛/画 王塚琏/原作 石風社 2021.5 ¥1500

物心ついた頃に親に捨てられ、船頭夫婦に育てられ、筑豊の炭鉱で働き、石炭とともに生きてある一坑夫の壮絶で過酷な生涯を描く。王塚琏の小説が原作の紙芝居「筑豊一代」をもとにした絵本。絵は2011年にユネスコ「世界の記憶（世界記憶遺産）」に登録された炭坑記録画家山本作兵衛の画業。炭鉱の歴史を子どもたちにも知ってもらいたいと、登録10周年を記念して出版された絵本。

『街どろぼう』 junaida/著 福音館書店 2021.7 ¥1500

遠い国の大きな山のてっぺんに、巨人が、家族も友だちもなくたったひとり寂しく暮らしていた。ある夜のこと、寂しくてしょうがなくなった巨人は山のふもとまでおりていき、一軒の家をこっそり山のてっぺんに持ち帰ってきた…。様々な表情をみせる木々

の緑、青い屋根の家々、街の風景、巨人や人々の表情、junaida ワールドに浸れる美しいファンタジー絵本

<絵本—中学生から>

『みにくいマルコ えんとつ町に咲いた花』 にしのあきひろ/著 幻冬舎 2021.5 ¥2000

映画にもなった『えんとつ町のプペル』の後日譚。炭鉱が閉鎖され仕事を失ったマルコは、モンスターハウス「天才万博」で「手長男」として出演することに。ある日、人間の少女ララと知り合い、心を通わせていくが、周囲のモンスターたちは「人間に心を許すな」と忠告。実は、ララには親が決めた婚約者がいて…。『花』に込められたマルコの純粋な愛の物語。

<読み物—小学校低学年から>

『ようかいじいちゃんあらわる』 最上一平/作 種村有希子/絵 新日本出版社 2021.7 ¥1300

ようかい村に住む、90歳のばあちゃんの家泊りにきたすみれちゃん。ばあちゃんといっしょに、死んだじいちゃんの好物を川にとりに行くことに。ばあちゃんは、滝の下に潜って素手で3匹のイワナをとり、焼いて握り飯と共に仏壇の前に供えた。その夜、目が覚めたすみれちゃんは、死んだおじいちゃんとお話しているおばあちゃんを見た。夏の田舎のお盆の風景が懐かしいお話

<読み物—小学校中学年から>

『先生、感想文、書けません!』 山本悦子/作 佐藤真紀子/絵 童心社 2021.6 ¥1200

登校日に、感想文の宿題をやったなかったのは、クラスではみずか一人だけ。「だって書けないんだもん」どうおもしろかったかとか書こうとすると、おもしろかった気持ちが消えていくというのだ。そこで、友だちのあかねと一緒にお話を書いてもらい、それを読んで感想文を書くことにすると、書きたいことがどんどんあふれ出し…。夏休みの子どもの気持ちに共感できる作品。

<読み物—小学校高学年から>

『月にトンジル』 佐藤まどか/作 佐藤真紀子/絵 あかね書房 2021.5 ¥1300

ぼく、ダイキ、シュン、マチは、幼稚園からの仲良し4人組。この仲間は永遠に続くと思っていたが、ダイキが大阪に引っ越してからというもの、なんだかしっくりこない。4人の絆がくずれていくのを受け入れられないぼくだったが…。そんな時、おじいちゃんが言っていた「うさぎのいない裏側の月」「分離して浮いたトンジルの脂」の意味を考えた。友情の変化を描いた成長物語。

<読み物—中学生から>

『庭』 小手毬るい/著 小学館 2021.6 ¥1400

真奈は SNS のトラブルがきっかけで不登校になっている中学3年生。夏休みの間、亡くなった父の家族がいるハワイに行き、盲目で英語しか話せない祖母のハイディと暮らすことに。ある日、真奈が広大な庭の一角で苔むした石仏を見つけたことから、ハイディは真奈の知らなかった家族のことを語り始める。自分のルーツを知ることで自分の居場所を見つけていく物語。

『万葉恋ばな 春夏秋冬』 みずのまい/著 学研 2021.7 ¥1000

日本最古の歌集である『万葉集』から選んだ20首の恋の歌の内容をモチーフとした短編集。1300年前に作られた歌だが、人を想う気持ちは変わらないことを再確認できる1冊。1首ずつ歌の背景や用語の解説もあり、国語の学習にも役立つ。それぞれの歌と連動するミュージックビデオが視聴できるQRコード付き。5分後の隣のシリーズ。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『性の絵本』 たきれい/作 高橋幸子/監修 KADOKAWA 2021.5 ¥1500

みんなが赤ちゃんのときから持っている2つの宝物。それは、心と体。体のしくみを知って心と体を守ろう！男女の体の違いや、赤ちゃんができて育っていく様子、自分の心と体をどうやって守ればいいのか、好きな子ともっと仲良くなるにはどうすればいいのかなど、子どもの心と体を守るために必要なことをわかりやすく伝える、読み聞かせて始められる性教育の本。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『難民選手団』 杉田七重/文 国連UNHCR協会/監修 ちーこ/絵 KADOKAWA 2021.7 ¥720

水泳選手のユスラ・マルディニは、安全な土地を目指して、2015年、姉と二人のいとこと一緒にシリアを出発。途中、乗っていたゴムボートのエンジンが故障したため、自ら海に入り3時間半泳いでボートを押すことに。たどり着いたドイツで、水泳を再開することになる。困難をのりこえてオリンピックに出場し、世界中に希望を与えた難民選手たちの7つの実話。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『聞かせて、おじいちゃん 原爆の語り部・森政忠雄さんの決意』 横田明子/著 山田朗/監修 国士社 2021.5 ¥1500

11歳の時広島で被爆した森政忠雄さん。あんなにおそろしくてつらいことは早くわすれてしまいたい、誰にも語らず過ごしてきたが、70歳の時、自由研究にするから原爆の話をしてほしいと小5の孫に頼まれ、とまどいながらも、原爆の悲惨さ、戦争のむごさを話した。このことをきっかけに、80歳を過ぎても現役で「原爆の語り部」として活動を続ける森政さんの決意を伝える1冊。

『命の境界線 保護されるシカと駆除される鹿』 今西乃子/著 浜田一男/写真 合同出版 2021.5 ¥1500

奈良公園では神様の遣い「神鹿」と呼ばれ、国の天然記念物として大切にされている「ニホンジカ」。一方滋賀県多賀町では、増えすぎた「ニホンジカ」による農作物や林業への被害が深刻で、有害獣として駆除の対象となっている。野生動物の「命」と向き合う現場から、人間と野生動物の共存とは何かを考える。日本動物愛護協会理事でもある、児童文学作家によるノンフィクション。

<ノンフィクション—中学生から>

『教科書の外で出会う、ぼくらの身のまわりの理科』 うえたに夫婦/著 ガリレオ工房/監修 河出書房新社 2021.6 ¥1420

理系イラストレーターで「ピーカーくん」シリーズの生みの親である著者が、実験創造集団ガリレオ工房の監修で「身近にある理科」を可視化した1冊。「かさぶたって何?」「色付きスティックのりの色が消えるのはなぜ?」など、中学生のポコ太が不思議に思った15の出来事が、中学校で学習する理科の内容で解説される形式になっている。14歳の世渡り術シリーズ。

<研究書>

『女性受刑者とわが子をつなぐ絵本の読みあい』 村中李衣/編著 中島学/著 かもがわ出版 2021.6 ¥1800

PFI 刑務所である美祿社会復帰促進センターで12年間実践された絵本の読みあいによる更生プログラムの記録。受講者が自ら選んだ絵本を声に出して読み、それを録音して家族や大切な人に届けるというこのプログラムで、グループ内での読みあいを通じ受講者たちがどんな本をどのように読み込んでいったかが綴られている。巻末にはプログラムでの読みあいを前提とした絵本リストあり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。取書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。